

(様式)

平成 20 年度 府立堺西高等学校 学校評価報告書

府立 堺西高等学校
校長 紺野 昇

1 めざす学校像

- ・“一人ひとりを大切にする教育”を柱として、多様な生徒が共に学ぶ関係を築く中で、確かな学力と豊かな人間性を育成する教育活動を実践する。
- ・生徒一人ひとりの自己実現を図るため、必要な知識・技能の習得に加え、進路への意識を涵養し、主体的・能動的に学習等に取り組む姿勢や自ら課題を解決する力の育成をめざす。
- ・生徒の自主活動への積極的な参加を促し、活動の活性化に向けた支援を行い、心豊かな人間性を育み、他者との共生力や規範意識の向上、コミュニケーション能力などの育成をめざす。

2 本年度の教育目標

- (1) 確かな学力の育成を図る。(学ぶ力の育成)
- (2) 自主自律の精神を踏まえ、自己実現をめざして主体的・意欲的に行動できる生徒を育成する。(自立・自己実現の支援)
- (3) 中高連携、高大連携の充実と、地域・保護者の信頼に応える学校をめざす。(学校運営)

3 本年度の取組み計画及び自己評価

領域	具体的な取組み計画(成果指標) [平成 20 年 4 月記入]	取組み状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	教科の組織的・計画的な学習指導の充実を図る。 進路指導の充実とキャリア教育の実践を図る。 生徒実態に応じた指導方法の改善・工夫により学力の向上をめざす。	一定、教科等でカリキュラムの検討は行っている。 進路指導部及び3年担任団は、生徒一人ひとりに対応したきめ細かい進路指導を行った。 学習指導の充実に向けた各教科の取組みについて、学校教育自己診断の結果では、教師は様々な工夫をしているという回答は多いが、生徒の回答には否定的なものが多い。	組織的・計画的な学習指導の充実 は、トータルプラン検討委員会等により、新学習指導要領、大阪の教育力向上プランを踏まえた検討を図りたい。 学校の特色づくり・個性化に向けて、キャリア教育の推進を図りたい。
(2) 生徒指導等	生活指導部を核とする全職員による組織的な生活指導の推進を図る。 本校の特色である生徒会活動、部活動等の自主活動の充実と、よりいっそう活性化を図る。 生徒の自尊感情を育てるとともに、人権感覚豊かな人間性を育む。 個々の生徒の悩み・課題に対応する教育相談や奨学金相談などの相談体制を充実させる。	全教職員による生徒指導では、本年度は登校指導の充実を図り、1年生でSHRを実施するなど、全担任の指導強化により、学校全体の遅刻者を17%減少することができた。 NPO法人化した後援会等の支援により、部活動や生徒会活動の活性化に向けた取組みは充実できた。 映画鑑賞等を通じた人権学習を実施。生徒の感想文から、一定の目標が達成できた。 本校で第8地区の奨学金個別相談会を1学期に継続実施し、地域での役割を果たした。教育相談はSVの八木先生の力により、相談体制を維持できた。	全学年でSHRを実施することとし、今後も遅刻指導に力を入れるとともに、その他服装、頭髪指導を全体での課題として取り組みたい。 本校の特色である活発な部活動・生徒会活動についてはNPO法人の支援を頂きながら、今後も継続したい。 より一層、人権教育の充実を図る必要がある。 継続して教育相談体制・奨学金指導体制の維持・充実を図りたい。

<p>(3) 学校運営等</p>	<p>中高連携や高大連携の充実を図り、生徒の個性の伸長と多様な教育機会を提供する。</p> <p>教育目標の達成に向け、学校と家庭・地域等の連携をより一層推進する。</p> <p>校内での情報の共有化を進め、校内の各分掌、学年、教科における連携を強化する。</p>	<p>堺西高カップ大会の拡大(本年ソフトテニスに加えてサッカーでも実施)など、部活動を通じた中高連携は目標を達成した。一方の高大連携については、目標の達成までは進まなかった。</p> <p>学校と家庭との連携や地域連携は、日常のPTA活動や後援会活動、堺西高カップ大会を通して、一定の成果はあった。また、校長ブログによる保護者向け情報発信も効果的であった。</p> <p>情報の共有化等の目標達成はできなかった。</p>	<p>今後のキャリア教育の展開に合わせて、高大連携の取り組みが必要。</p> <p>現在のNPOの支援体制のもとで、地域連携を維持し、家庭との連携については、担任を通していっそうの充実に向けた取り組みが必要。</p> <p>校内での情報の共有化や、校内の分掌、学年、教科での連携の強化は、引き続き課題である。</p>
------------------	--	--	--

4 学校教育自己診断における結果と分析
[平成20年12月実施分]

<p>*実施対象(<u>教職員</u> ・ <u>児童・生徒</u> ・ <u>保護者</u> ・ その他)</p> <p>・生徒の調査結果 学校が楽しいという生徒の意見は圧倒的多数。その他、部活動が活発・生徒会活動に参加するという回答率も高い。</p> <p>一方、「授業がわかる」「わからないところは先生に質問に行く」という生徒の回答が少ないことや、自宅学習時間が短いという課題も明確になった。家庭学習の指導を検討する必要がある。</p> <p>・保護者の調査結果 本年度の調査では本校の教育方針及び活動内容に対する保護者の感想・意見は肯定的な者が多い。特に本校の重点教育目標である部活動・生徒会活動等を通じた自主性の育成についての理解は高いと思われる。また、PTA・後援会の活動、地域との交流、学校の教育方針への共感については、前回のH13年度の調査に比べて肯定的意見が大きく増加した。</p> <p>・教職員の調査結果 教員では指導方法の改善、到達度の低い生徒及び高い生徒に対する学習指導を行っているという回答が多いが、生徒の意見には授業のわかりやすさや、楽しさについては否定的意見が多かった。授業改善が必要である。</p> <p>また、教員間で、授業方法についての検討機会、教育計画・教育課程や指導内容等について、話し合いが少ないという意見が多い。</p> <p>その他、教育内容に関しては、奉仕活動などの体験学習・ボランティア活動、人権教育等の推進等の点に課題があり、今後のカリキュラム作成にあたって留意すべきである。</p>

5 学校協議会における提言内容

<p>*実施日 第1回(8/1) 第2回(2/16)</p> <p>*委員構成 冷水啓子(桃山学院大学教授)、大野順子(桃山学院大学講師) 中島智子(プール学院大学教授)、西尾重晴(福泉中央校区自治連合会長) 野澤健(堺市立原山台中学校長)、山本美也子(堺西青少年地域育成会理事長)</p> <p>*内容</p> <p>【第1回抜粋】 全教員による生活指導の充実、1年生の朝のSHRの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生で遅刻が突出している。全学年で朝のSHRを実施すべき。 ・遅刻対策では何が有効なのかを検証、検討すべき。 ・生徒指導ではゼロ・トレランス(基準を明確にし、こまめにきちんと指導していくこと。例としてイエローカード制など)が重要。 ・立ち番の際、教員は笑顔で生徒を迎えることが大切。 <p>【第2回抜粋】 自己診断結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は指導方法の改善、きめ細かな学習指導を行っていると言うが、生徒の意見には反映されていない。よりいっそう指導方法の改善が必要。 ・教師が生徒に期待するものがないと生徒は伸びない。 ・新鮮な感覚で、学校運営や授業のあり方について、活発に議論する必要がある。 ・堺西で学習だけを期待している保護者ばかりではない、人間力として、もっと他に伸ばしてくれる素晴らしいものがある学校である。
--